

平成27年度 学校自己評価システムシート

本庄東高等学校附属中学校

目指す学校像	<p>建学の精神 本校は人間の尊さを教え、社会に期待される素地をつくり、人生に望みと喜びを与えるところである</p> <p>教育方針 一貫校である本校の特色を生かした「自らが考え、判断できる、知と心を備えた聡明な人材」の育成</p>
重点目標	<p>1. 知的好奇心を育て、学習習慣を確立し、確かな学力を身につけさせる。</p> <p>2. 幅広い視野を持ち、生徒一人一人が、自ら職業観を育てる。</p> <p>3. 礼儀やマナーを大切に、自他を尊重できる人間関係を促進する。</p>

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度目標					年間評価 (3月31日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>・全学年が今年度より、4クラス体制となった。以前の比較では、成績が振るわない生徒の大半は、理数教科の躓きであった。しかし、最近の傾向は、むしろ国社教科の躓きが見られるようになってきた。</p> <p>・原因として挙げられる1つには、活字離れによる、筋道を追いながら、長い文章を要約する力が不足しているのではないかとの指摘があった。読解力と要約力は、全て教科の根幹をなすものである。</p>	<p>・学力向上に向けての取り組み</p>	<p>・理数教科については、生徒の授業評価を3段階から2段階の評価に変えて、理解不足と感じられる項目のチェックを行うこと。</p> <p>・暗記項目と理解項目を生徒自身が正しく評価できるように指導すること。</p> <p>・生徒による自己評価に対する情報を担任から教科担当へスムーズに行うこと。</p> <p>・朝読書の時間をしっかり活用すること。</p>	<p>・担任を通して、生徒の自己評価の仕方を理解させ、正しい評価がなされているか。</p> <p>・担任と教科担当が生徒の評価情報を共有し、生徒にフィードバックされたかどうか。</p> <p>・さらに問題が生じた生徒に対する教科指導がきちんとなされたかどうか。</p> <p>・朝読書の時間に、副担任による指導がなされているかどうか。</p>	<p>・まだまだ生徒の授業評価が甘く、思うような成果が出ていないが、少しずつ生徒たちの意識の変化が見られるようになってきた。</p> <p>・朝読書指導については、できる限り副担任が教室にいて、適切な指導を行うように、全学年共通認識で取り組めるようになってきた。</p> <p>また、この取り組みから国語力に結びつけていくためには、3年間というスパンを必要とするものなので、今後の動向を見守りたい。</p>	B	<p>・なかなか理解が進まない生徒へのケアする時間の確保が課題である。</p> <p>・限られた時間内で、生徒への確にフィードバックするためには、日数を掛けて継続する必要がある。</p> <p>・生徒が自ら学習意欲を持ち、日々の努力によって、学修したと実感できるようなシステムの確立を目指し、時間をかけて、検討していくことが長期的な課題である。</p>
2	<p>・キャリア教育の目的・目標を踏まえ、中学3年間での流れを意識して、各学年ごとの目標設定を明確にしていく。</p> <p>・民間企業による出前授業をさらに有効活用できるように情報の収集を行い、生徒により多くの業種を体験できるようにしていく。</p> <p>・学校全体での出前授業は、学校行事の関係で、年2回、1・2学期で実施していく。</p>	<p>・業種の理解を深める取り組み</p>	<p>・1年生では企業の出前授業を活用し、世の中にはどのような仕事・業種があるのかを知る。</p> <p>・2年生では企業訪問を行い、実際の仕事現場を見たり、従業員の話を聞いたりすることで、自身の進路目標を明確化する。</p> <p>・3年生では大学訪問を通して、進路目標達成のための具体的な進路プランを考えていく。</p> <p>・全学年を通して、文化祭の際に職業調べ学習発表を行い、キャリア教育についてより理解を深めていく。</p>	<p>・より多くの成果を出すために、事前指導と事後指導が適切になされたかどうか。</p> <p>・生徒が目的を十分理解して取り組むことができたかどうか。</p> <p>・積極的で、かつ主体的に取り組むことができたかどうか。</p>	<p>・各学年ともに、文化祭での職業調べ学習発表を成功させ、キャリア教育について理解が深まっている様子が見られた。</p> <p>・学年が上がるごとに、発表に対するスキルの向上も見られ、実りあるものとなっていた。</p>	A	<p>・企業選定に関しては学年間で引継ぎを十分に行うこと。</p> <p>・新規に出前授業・企業訪問を依頼する企業に関しては、早めのアプローチを心掛け、生徒にとってよりよい情報提供・体験ができるように工夫をすること。</p> <p>・多くの情報を知ったり、体験する中で、生徒の自己実現に向けて、サポート体制の更なる改善を目指していくことが必要である。</p>
3	<p>・校外外を問わず、さらなるモラルやマナーの向上を目指し、周囲からも信頼される生徒を育てる。</p> <p>・学校行事を通して、クラス内の団結力や協力の大切さや感性豊かな生徒を育てる。</p> <p>・危険回避がしっかりできる判断力のある生徒を育てる。</p>	<p>・信頼される生徒の育成</p> <p>・人間性豊かな生徒の育成</p> <p>・判断力のある生徒の育成</p>	<p>・年間を通して定期的に、生徒の現状を把握するために、教員自ら、スクールバスや駅での巡視をする。</p> <p>・必要に応じて、学年集会や全校集会を実施する。</p> <p>・外部講師による注意喚起・啓発をし、危険回避できるようにする。</p>	<p>・定期的に巡視することで、生徒のようすを把握し、正しい行動がなされているか。</p> <p>・本校の生徒である責任・義務の大切さや先輩・後輩の関係がしっかりできているかどうか。</p> <p>・交通ルール等の社会的なルールがしっかり守られているかどうか。</p> <p>・本校の先生以外でも、注意された時、注意を素直に受け止めてしっかりした態度がとれるかどうか。</p>	<p>・地元の生徒だけでなく、様々な地域からの通学しているため、すべての現状把握が難しい状況ではあるが、生徒指導部が中心となって、学年付きの先生の協力を得ながら取り組むことができた。</p> <p>・キャリア学習や体育祭等で、協力の大切さやゆずり合うことを学ぶことができた。</p>	A	<p>・先生の目の届かない所では、頼りになるのは、上級生である。上級生が手本となり、リーダーシップを発揮して、後輩の面倒をみられるように指導していくことが重要である。</p> <p>・危険回避がしっかりできるように定期的な注意喚起が必要である。</p>